



博物館学習シート（人間の人物）

（平成 年 月 日 氏名 ）

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。
 疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べてみましょう。
 鉛筆と下敷きを用意しましょう。（ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。）

1 次の写真の人物は、現在の人間市出身で、明治から昭和にかけて活躍した人です。それぞれ何という人でしょう。また、この2人はどのような業績を残しましたか。下のア～コから選びましょう。

A



B



人物名

人物名

業績等(記号)

業績等(記号)

- | | | |
|----------------------|----------------|-------------|
| ア．黒須村に生まれる | イ．藤沢村に生まれる | ウ．黒須銀行を設立する |
| エ．豊岡町長を務める | オ．立憲政友会に所属する | カ．豊岡大学を開講する |
| キ．アメリカに留学する | ク．茶業界で県下トップとなる | ケ．衆議院議長となる |
| コ．昭和5年総選挙までに計12回当選する | | |

2 次の資料は上のAの人物に関わるポスターですが、これを見て気がついたことを書いてみましょう。



3 次の写真は上のBの人物が開講した豊岡大学の講義風景です。この公開講座にはどのような人が参加していましたか。



ちょっと一息

「豊岡大学」って何だろう？

この「豊岡大学」は皆さんが思い描く「大学」とはちょっと違って、今で言えば「市民大学」(公開講座)のようなものでした。明治から大正時代にかけて約30年もの長い間、入間市の前身である豊岡町とよおかまちの町長をつとめた繁田武平はんだぶへいが、長年の念願でだった公民教育・社会教育を盛んにするため自身の集大成として取り組んだのがこの「豊岡大学」でした。

かねがね武平は、小学校卒業後、質の高い教育を受ける機会が少ない地域の青年たちに、何としても教育を受けさせたいと考えていました。つまり、教育を受けて知識を向上させることが、町の活力を高めることにもつながると信じていたからです。そこで計画されたのが、この豊岡大学でした。

大正14年(1925)から昭和14年(1939)にかけて合計25回の講座が、豊岡公会堂とよおかこうかいどうを会場として開かれ、25回の講座で合計80名の著名な講師が招かれましたが、いずれも当時の日本におけるそれぞれの分野の指導的立場にある人たちでした。これは、ひとえに武平の努力と熱意によるもので、全国的に見てもたいへん意欲的な取り組みだったといえます。

豊岡大学の主な講師と講義内容を紹介します。

<主な講師と講義内容>

「政治について」(第1回)	代議士、総理大臣	犬養 毅 <small>いぬかい つよし</small>
「帝国の現状」(第5回)	代議士、東京市長	尾崎 行雄 <small>おざき ゆきお</small>
「修養の根本義」(第6回)	農学・法学博士	新渡戸 稲造 <small>にとべいなぞう</small>
「小より大へ」(第11回)	自由学園長	羽仁もと子 <small>はに もとこ</small>

豊岡大学の特徴・・・男女(女性の参加は第8回から)、年齢、学歴を問わず参加できた。

参加人数・・・第1回が200名、女性が始めて参加した第8回は418名もの人が参加した。



豊岡大学の考えは、今でも入間市博物館や入間市の生涯学習事業に引き継がれています。

見学を終えて

・博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか

・それはどの時代ですか

・印象に残った理由はなんですか

・見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか

ある

ない

・それはどのようなことですか